

多様性を持った物語読解への再構成型概念マップの適用 — 「他者の理解」の理解としての読解 —

Recomposition Concept Map for Story Comprehension -Reading Comprehension as Understanding of Other's Understanding-

茅島路子^{*1}, 長谷浩也^{*2}, 前田一誠^{*3}, 渡邊弘大^{*4}, 平嶋宗^{*4}

Michiko Kayashima^{*1}, Hiroya Hase^{*2}, Kazumasa Maeda^{*3}, Koudai Watanabe^{*4}, Tsukasa Hirashima^{*4}

玉川大学^{*1}, 姫路大学^{*2}, 環太平洋大学^{*3}, 広島大学^{*4}

Tmagawa Univ.^{*1}, Himeji Univ.^{*2}, IPU^{*3}, Hiroshima Univ.^{*4}

Email: kayasima@lit.tamagawa.ac.jp^{*1}

あらまし：本稿では、多様な読解の存在が前提となる物語読解を対象とした再構成型概念マップの適用に関して検討する。多様な読解を概念マップとして記述し、それを再構成させる活動は、「他者の理解」の理解となるが、これが自身の読解を促進できる期待できる。さらに、概念マップとして読解が外在化され、その操作を他者と共有できることは、読解に対する共有体験を付与することを可能にする。これらは、物語読解を深める新規な方法となる。

キーワード：教物語読解, 再構成型概念マップ, 「他者の理解」の理解, 読解の体験とその共有

1. はじめに

概念マップは、事象に対する意味的理解を図的に表現する手段として広く認められており、学習者に自身の理解を外在的に表現させる方法として教育での利用も盛んに行われている。筆者らの提案している再構成型概念マップ⁽¹⁾ (Kit-Build Concept Map, 以下では KB マップと呼ぶ) は、元となる概念マップ (以下ではベースマップと呼ぶ) を分解することによって得られた部品を学習者に提供し、再構成として概念マップを作成させる枠組みである。ベースマップおよび再構成されたマップが同じ部品で構成されていることからマップ間の比較が可能であり、再構成されたマップとベースマップの異同を表現する差分マップや、複数のマップを重畳することでグループとしての再構成を表す重畳マップの作成が可能となっている。教授内容に対して想定される意味的理解を教授者がベースマップとして作成し、教授後に学習者にマップを再構成させ、個々の学習者やグループとしての理解を観測・診断・支援するのが基本的な教育利用となる。この利用法は、実験的・実践的利用を通して、有用性が検証されており、協調学習でも効果があることが確認できている。

この KB マップでは、教授者が想定する理解を表すベースマップが必須であり、このため統一的な理解の設定が許容される整理された学習内容が対象となっており、読解においては論旨が明示的であることが前提となる論説文などが適用対象であった。これに対して物語読解においては、異なる解釈の存在と、その異同をめぐる話し合いが重視されることから、KB マップの適用対象とはされていなかった。

これに対して本研究では、(仮定 1) 教授者は物語に対する多様な理解の存在を知っているはずであり、であるとすればそれを一つのベースマップとして表現することができるのではないかと、(仮定 2) 「物語に対する他者の読解」を理解することが、物語読解

に話し合いの促進に有用なのではないかと、の二つの仮定を置き、多様性を持った物語の読解に対して KB マップを適用する。仮定 1 のうち、国語教育において多様な読解の存在を認めており、それらを尊重すべきとしているのは明らかである。多様な理解を表すベースマップの記述に関しては、本研究の課題となる。仮定 2 に関しては、「物語に対する他者の読解」は話し合いにおける「聴くこと」と捉えることが可能であり、この重要性も明らかであろう。概念マップの再構成が聴くことを促すかどうか、本研究の課題となる。理論的には共感的理解の観点から妥当性が示唆される。共感的理解とは他者の理解を再構成することによる理解であり、この再構成においては自身の理解の構成とその参照が不可欠となるため、共感的理解は自身の理解を促進することになるとされている。再構成概念マップはこの共感的理解を操作として定義した課題化となっている。

以下本稿では、まず多様な読解を記述するベースマップについて検討する。次に、その再構成としての課題化について検討する。最後に、組立てとしての読解を課題化することのメリットと、懸念事項への対応に関して論じる。

2. 多様な読解を表す概念マップと課題例

図 1 に「ごんぎつね」における「兵十にごんの気持ち伝わったかどうか」に対する多様な読解とそれを表す概念マップを記述した (文献(2)で報告されている話し合い事例に基づくものである)。各ノードに特有の役割 (一番上が主張、一番下が参照文など) が与えられている特殊な概念マップとなっているが、現在の KB マップシステムで取り扱い可能であることが確認できている。部品化については、ノードとリンクに完全分割すると難しくなりすぎるため、リンク先を切り離す部分分割による部品化が適当であると判断している。図 2 は、KB システム上での実

際の部分分割による部品化の例である。この部品を組立てて図1の言語的に表現された読解に沿った概念マップを再構成することを読解課題とする。

従来の読解とその結果に基づく話し合いにおいては、発話した学習者以外の読解は共有されないままであった。また、優れた発話があった場合でも、その発話の意味的共有は容易ではなかった。このような現状に対して、図1, 2のような他者読解の組み立て課題は、全学習者が行うことができ、さらに、KB マップの仕組みを用いて個別の診断・可視化ができる。また、個々の学習者の概念マップを重畳することでグループとしてどのような組立てを行ったかの集約・可視化できる。これらの可視化によって、読解が外在化され、その外在化された読解を参照しながらの話し合いが可能となる。また、学習者に最も近い意見のみを作成させることで、個々の学習者の読解を表明させることも可能となる。部品では表現できない読解を行っている場合についても、ブランクのノードとリンクを使わせることで、異なる意見の存在とその量を可視化できる。

図3の事例は、「ごんは、ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました」という文に対する異なる読解を表したものであり、同一文に対する異なる解釈が重要となる例である。ここで、ごんぎつね作者の「元原稿」においては「ごんは、ぐったりなまま、うれしくなりました。」となっていたことが知られており、この文に置き換えた場合の児童の読解がどう変化するかを収集・可視化することができる。先行研究では、「伝わった」と判断する児童が増加するとされており、これがなぜか、を話し合うことは、作品論に通じるものと期待できる。

3. 部品を用いることのトレードオフ⁽³⁾

部品を用いることによる読解の底上げ効果は明らかであろうが、それによる限定の程度が問題になるであろう。言語が認識を規定する、という言語的転

回を背景とすれば、利点が欠点を上回ることが期待できる。部品の意味を共有できるかに関しては、共約不可能性につながるが、本枠組みにおいては、学習者と教授者が同じ部品を使う体験を共有することができ、その体験において意味の共有が可能と解釈することが共約不可能性に関する一つの解になりえると考えている。今後、この構想に沿った授業実践を予定している。

参考文献

- (1) 平嶋宗：“キットビルド概念マップの理論と活用：形成的評価・批判的思考・共同作業・FDの観点から”。教育システム情報学会中国支部第20回研究発表会(2021)
- (2) 佐々原正樹,青木多寿子：“話し合いに「引用」を導入した授業の特徴”，小学4年生の談話分析を通して。日本教育工学会論文誌, 35(4), 331-343(2012)
- (3) 平嶋宗：“授業内共通言語の提供としての再構成型概念マップ”，教育システム情報学会全国大会(2022) [謝辞] 本研究はJSPS 科研費 19K12278 の助成を受けた。

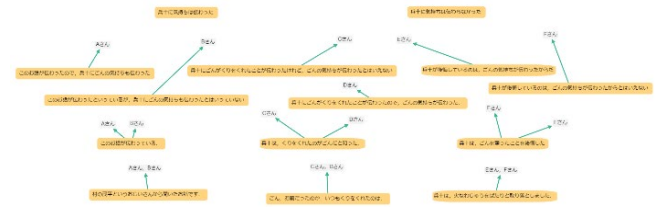


図2 部分分割による部品化

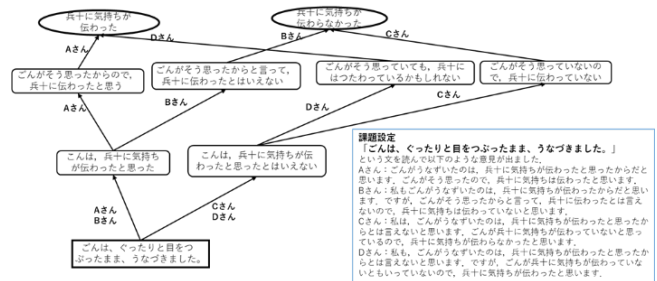


図3 多様な読解と概念マップ化(2)

兵十にごんの気持ちが伝わったかどうかに関して、下記の6個の意見が出ました。

- 「村の茂平というおじいさんから聞いたお話です」といっているの、
- Aさん：このお話が伝わっているはずですが、だから兵十にも気持ちは伝わっていると思います。
- Bさん：お話が伝わっているとは言っていますが、兵十に伝わったとは言っていないので、兵十に気持ちは伝わっていないと思います
- 兵十が「ごん、お前だったのか。いつもくりをくれたのは。」といっているの、
- Cさん：兵十は薬をくれたのがゴンドと知ったと思います。だから、兵十にごんの気持ちが伝わったと思います。
- Dさん：私も、兵十は薬をくれたのがゴンドと知ったと思います。ですが、薬をくれたのがゴンドと知ったとしても、ごんの気持ちが伝わったとは言えないと思います。
- 兵十が「兵十は、火をわじゅうをばたりと取り落としました」といっているの、
- Eさん：兵十はごんを撃ったことを後悔していると思います。だから、兵十にごんの気持ちが伝わったと思います。
- Fさん：私も、兵十はごんを撃ったことを後悔していると思います。ですが、兵十はごんを撃ったことを後悔していたとしても、ごんの気持ちが伝わったとは言えないと思います。

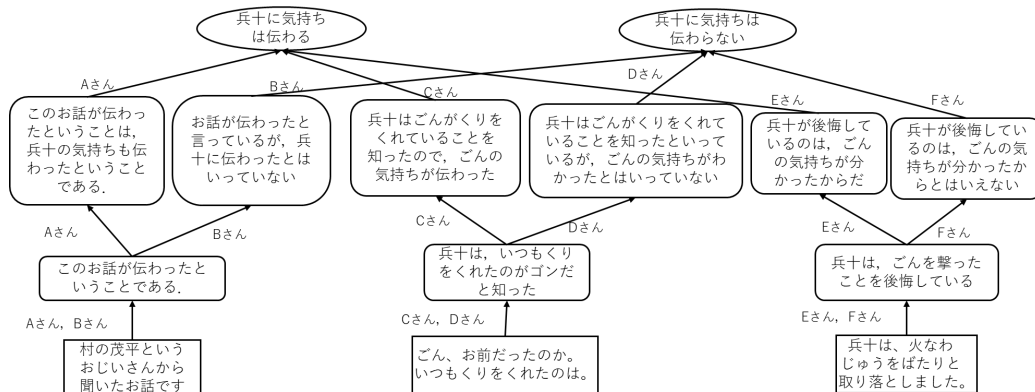


図1 多様な読解と概念マップ化(1)